

まるやま
丸山遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 39 秒
東経 137 度 19 分 34 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 10 月～11 月

調査面積 2,000 m²

担当者 鵜飼雅弘・本田英貴・石井香代子



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 丸山遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 本遺跡は、下山田代町・田折町の境を成す東西に伸びる尾根および南側の稜線を範囲とする。東で孫田遺跡、西で孫石遺跡に接する。平成 19・20 年度の分布調査では灰釉陶器、土師器、土器が採集されている。平成 22 年度の試掘調査では、最東端の尾根、中央の尾根で土坑状の落ち込み、西側の尾根の鞍部で溝状の遺構を確認し、中央の尾根付近で縄文土器、西側尾根の鞍部で弥生土器や内耳鍋が出土している。

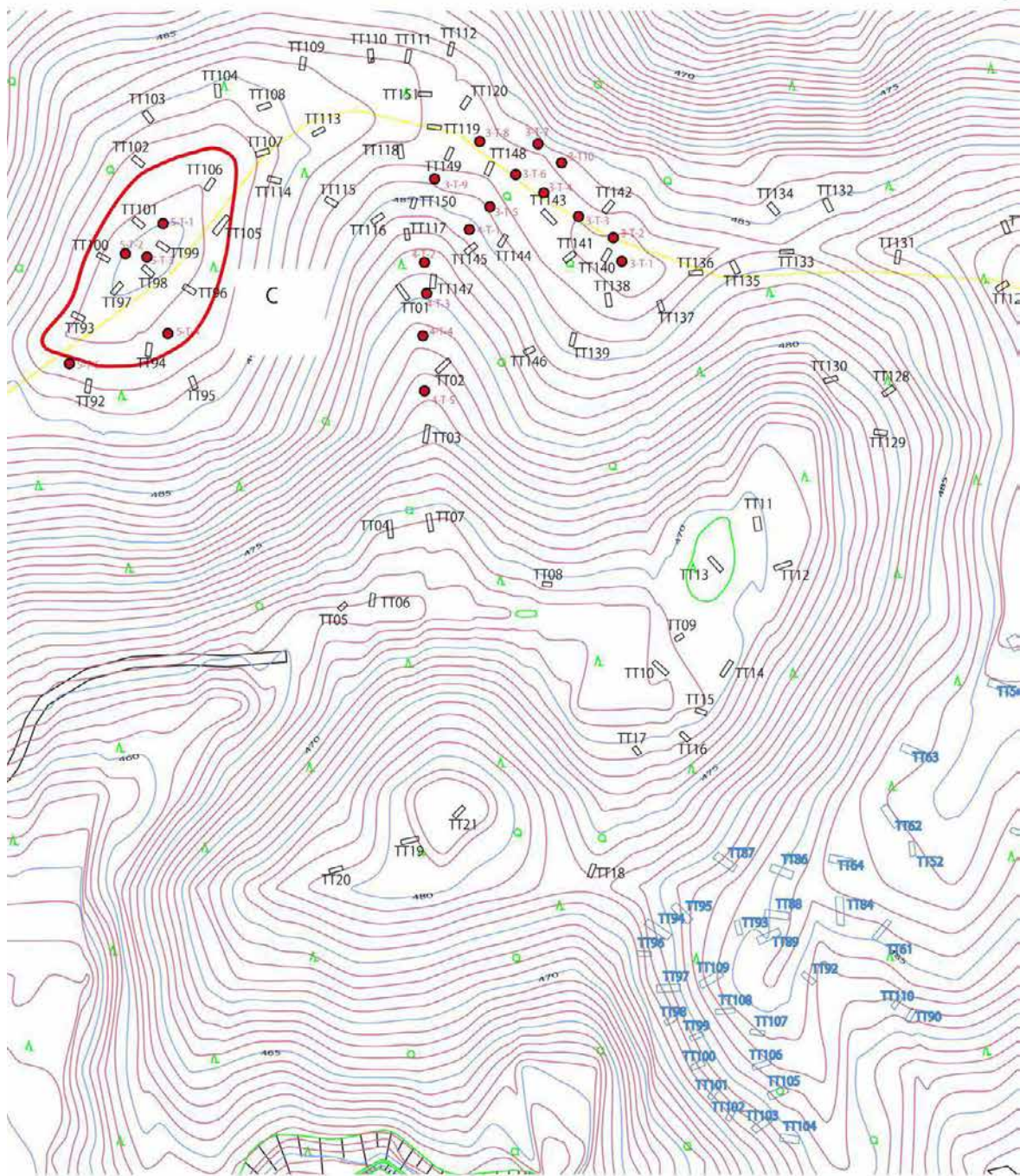
調査の概要 試掘坑は、尾根部とそれに伴う斜面部に 179 ヶ所 (TT01～179) と本来本遺跡である分を孫田遺跡の調査として掘削した 51 ヶ所 (孫田 TT52～76、84、86～110) の合計 230 ヶ所を設定し、遺構・遺物の有無や、堆積状況を確認した。

北西側尾根から南の緩斜面、鞍部では、尾根の頂部付近の TT70 で縄文土器が出土した。緩斜面から鞍部にかけては、表土から 3～40 cm 程下に黒色シルト層、間層を挟み黒色層が地山の上に展開する。TT56、60 では下の黒色シルト層前後から掘り込まれた土坑を検出している。また、TT60 では上部の黒色層から古瀬戸が出土した。(A 地点)

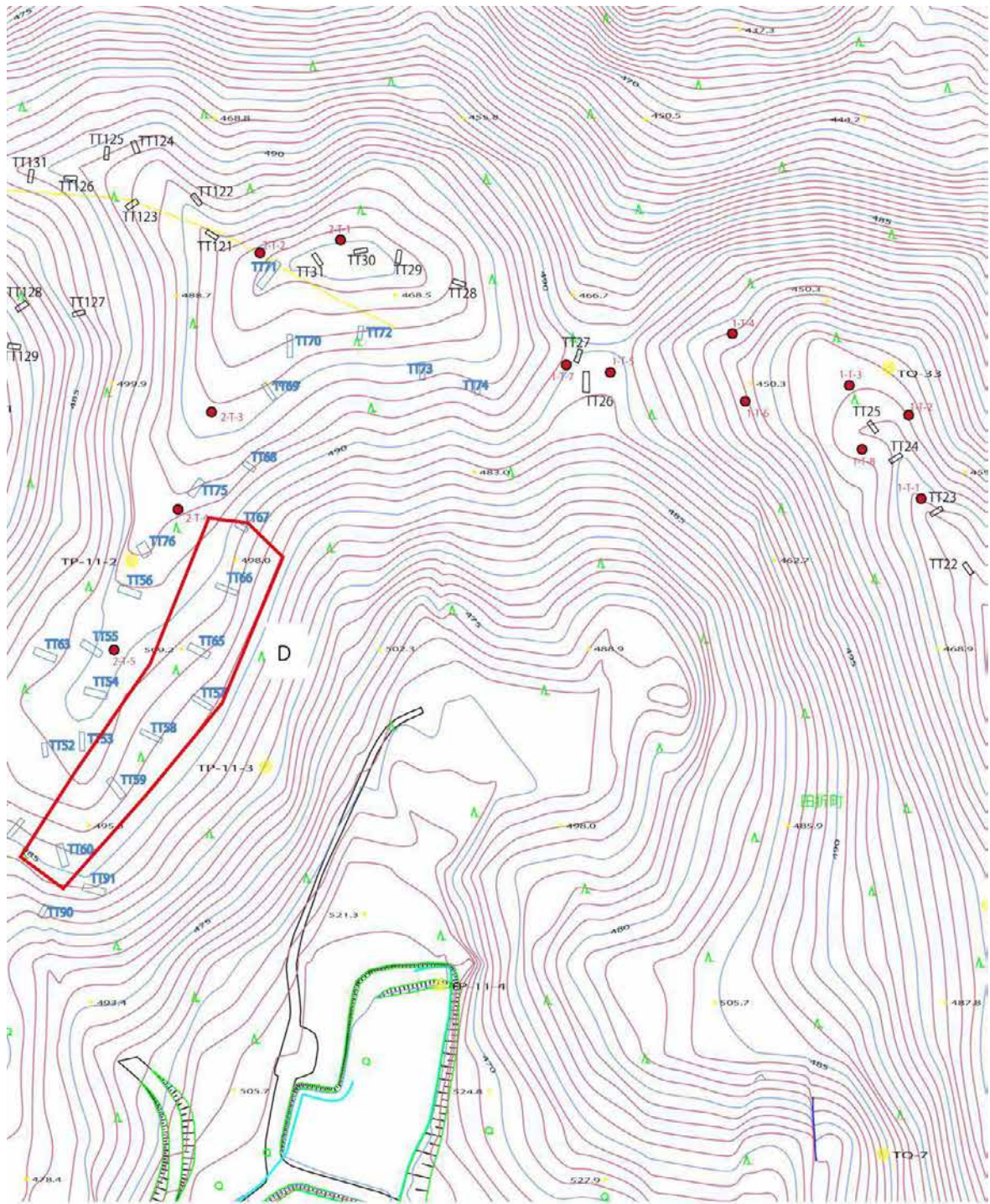
遺跡南西部の西側への緩斜面部では、表土下 30 cm ほどで褐色シルト層が広がる。TT168、179 でこの層から灰釉陶器が出土し、TT168 では包含層の直下から掘り込まれた土坑を確認した。(B 地点)

試掘時に縄文土器が出土した中央の尾根付近では、TT94、97 で時期不明の土坑を検出している。(C 地点)

遺跡東の東南に伸びる稜線から東斜面部では、稜線状では遺構・遺物の確認はできなかったが、孫田 TT65 で表土直下の褐色シルト層から土師器片 19 点が出土した。(D 地点) (本田英貴)



丸山遺跡その2 (S=1/1,000)
 ※赤丸は試掘トレンチ
 ※青色は孫田遺跡掘削分
 ※赤枠は遺跡範囲



丸山遺跡 その3 (S=1/1,000)

- ※赤丸は試掘トレンチ
- ※青色は孫田遺跡掘削分
- ※赤枠は遺跡範囲

おんぼ
オンボ遺跡

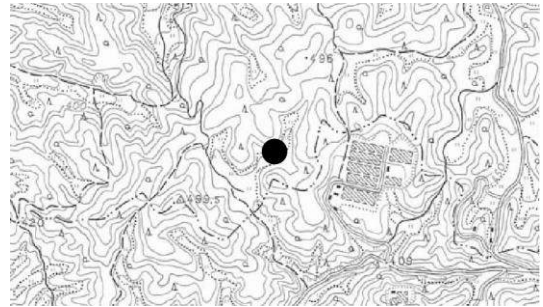
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 7 秒
東経 137 度 18 分 31 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成

調査期間 平成 23 年 10 月～平成 24 年 1 月

調査面積 650 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 オンボ遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として調査対象地とされた地点である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 オンボ遺跡は保久川支流の上流域に立地し、西には引地上切遺跡が隣接する。地形的には北から南西方向へと向かう大きな谷を中心に大小の尾根と谷が入り組んでおり現況は水田と山林である。

調査の概要 オンボ遺跡に設置した 58 か所の試掘坑 (TT01～TT58) のうち、遺跡の広がり確認できたのは、山林部に設置したトレンチからであった。水田部は、遺物は出土したものの、尾根や谷からの流れ込みによるものと考えられ、遺跡の広がる可能性は低いと思われる。

北東山林部 南東方向から北西方向へ下る緩斜面に設定した試掘坑 TT18、20～25、51 で、複数の黒褐色系シルトの堆積を確認した。また、TT19、20、21、23 で土坑、ピット、溝を検出した。特に TT20 の遺構検出面直上の黒褐色シルトから、山茶碗、鉢、縁釉小皿、土師質鍋など中世の遺物が多く出土した。

南東山林部 南東方向から北西方向へ下る斜面に設定した試掘坑 TT32～40 で炭化物を多量に含む黒褐色系シルトの堆積を確認した。TT36 では溝と考えられる遺構を検出し、遺構検出面直上の黄灰色シルトから山茶碗、土師質鍋が出土した。

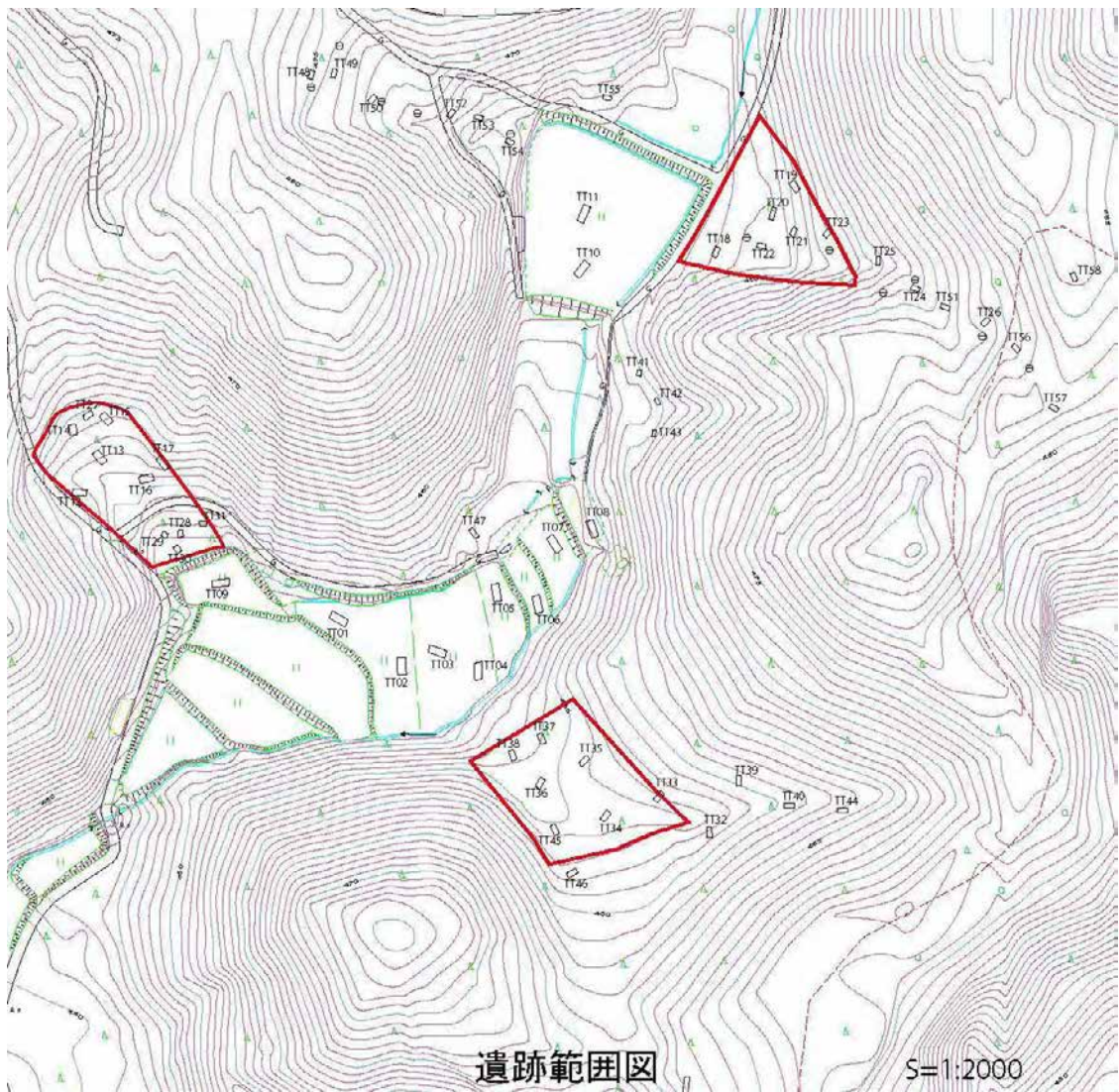
南西山林部 北西方向から南東方向へと下る斜面に設定した試掘坑 TT12、13、15～17 で黒褐色系シルトの堆積を確認した。TT17 で土坑を検出し、TT16、17 からは山茶碗、土師質鍋が出土した。また、地表面で確認できる高まりは、TT16 と TT27 の断面観察から盛土であることがわかった。TT16 の盛土中から山茶碗が出土しており、造成は中世以降にされたと考えられる。(伊奈和彦)



TT23 遺構検出写真



TT23 出土遺物



遺跡範囲図

S=1:2000